



第410号 発行所 久田町の部 山形市 山形県 編集 山形県 山形市 山形県

編集部連絡先 二本松市 内1-5-15 0243(22) 4246 Fax 渡辺 正

新年あけましておめでとうございませす

会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。以前として不自由な事が多く会員の皆様と語らう場などが作れず寂しく思っておりますが、大きな山も小さな一歩から始まるように、いつかはコロナ過前のように過ごせる時が近づいてきていますと信じています。

旧年は登山道整備などにも積極的にご参加いただき大変ありがとうございました。本年は当会創立六十五年の節目となりますので一大イベントを実施したく考えております。役員だけでなく皆様のご協力を頂き記念になるような行事にしていきたいと考えておりますので本年も何卒、宜しくお願ひします。

本年も皆様が御健勝で御多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

二〇二三(令和五)年元日 あだたら山の会会長 □□□□

十二月三日(土)

十二月山行、塩沢・黒森山

報告 □□□

十二月山行は、塩沢、黒森山。八時半、参加者十名、川治いに登り、宮沢の部落から、旧岩崎村へ抜けるカブの所からは、舗装が無く乗り合わせして出発。祓

あるが、黒森山登山口の標識までの道、草刈はされたが、草ぼうぼうの道だった。車道の低い、軽自動車では通るのに苦労したかも知れない。当日は風も無く温かな日。九時一分、登山口発。



11時10分、黒森山山頂出発、日影になってしまいました

登山口入口看板の所、耕作地の側溝が掘られていて、登山道無くなっていた。十時程だが、藪の端っこを歩かねばならない。その上からは以前の登山道に戻れる。刈払いやられていないため、伸びた笹が多い。もつと前の季節だったら、日当たりの良い草原だから笹以外の草も伸び放題だったと思われる。年に二、三回の刈払いは必要だ。範囲は登山道入口から「尾根の角」まで。九時二十四分「尾根の角」着、ここからはサフ

道があったところではないので、迷いやすが、ピンクの目印テープが頼りだ。(真っ直ぐパトロール道を辿ると、黒森山山頂に直行だが、山頂に近づくとつれ、傾斜は急になり登るのに苦労する)。南側の尾根に出たところに、「船石」がある。船先を南側に向けた船に見えるのだ。昔の名は知らない、筆者が最初に登った時に付けた名だ。船石からはピンクのテープに随って、西に少し歩くと、石を並べた「墳壇」が現れるので、それに沿って登る。間もなく黒森山頂だ。十時五十分、山頂着。西側、樹林が開けていて、安達太良連峰が極近くに真正面に見える。「道の駅つちゆ」が横から見える。ここから見えた馬の背、積雪になっていた。今年の安達太良山初冠雪は十一月十七日、その後暖かな日が続き初冠雪は消えてしまったのだ。昨日辺りから山頂付近では降雪になったようだった。それでも例年確認出来る湯川溪谷登山道は見えなかった。黒森山頂では、提供頂いたノンアルコールの赤ワインで乾杯。干し柿も頂いた。



13時25分、鍋を頂いています

「鍋」が準備されていた。黒森山頂でも良かったのだが、集合場所が秋の「芋煮会」等がよく使われる、鉄扇砂防公園。今日登る山も、午前中には下山出来る規模の山。と言う事で砂防公園で鍋やろうという事になっていった。砂防公園まで戻って、風当たりの弱い、奥のテーブルでやる事にした。準備されていたのが、家庭用のカセットコンロ、実は家庭用のボンベでは、火が弱くて、中々沸騰しない、寒冷地用のボンベでないとならないのだ。□□□□さんが、山用のコンロお持ちだったのでそれを借用。漸く沸騰させる事が出来た。ただ鍋が大きくて落ちそうなので常に誰かが支えていた。味噌煮込みの鍋、筆者は井三杯も頂いた。□□さんは、コーヒーを入れて下さった、有り難く頂いた。

ここからは、境界線を西に辿る。少し急になった所で、南西側向きを変える。十一時十分、山頂で記念撮影。下山開始。何事も無く十二時二十二分登山口に到着。実は、この山行では今年最後の山行と言う事で、

十一月二十二日(火)

個人山行

夏井川紅葉と、三ツ箭山下レッキング

報告 □□□□



今年も妻と友を誘い、二本松七時三十分出発、旧白沢村・田村市・小野町を通り、県道四一線をいわけへ。夏井川の紅葉を車窓より徐行しながら楽しむ。二ツ箭山登山口である大山祇神社専用駐車場へ車を止め、午前十時入山する。林道を少し登り大きなカーブを過ぎると月山登山道入口の案内より土手をロープ頼りに登り、針葉樹林の中、急登を登り少し解放されると広葉樹林となる。休憩するの

に最適な場所である。直登の急な登り途中、岩石もあるが、危険な所は無い。目の前の大きな岩石を越える。と月山山頂である。沢の向こうには、男体・女体の岩峰や眺望を楽しむ事が出来る。登山口より約一時間半の登り。いわき市や太平洋を望む小広い所で休憩。昼食時間である。十二時四十分下山。急登を慎重に下り、午後二時、大山祇神社へ下山する。帰路は開通したばかりの国道三九

九号バイパスを通り、川内村へ。古い道より大きく、時間短縮し快適に走る事が出来る。川内の湯や直売所は定休日休み。三九九国道より県道一一二号に入る。松山高原へ廻り、直前の静かな高原とは変わり、現代の高原、風力発電の基地となり、二十基以上有り管理道の上

でも廻っていて不気味な感じをする高原となつてしまった。常葉町の二八八国道より、県道一一九号線を旧白沢村より四時四十分無事二本松へ。夏井川の紅葉・三ツ箭山トレッキング、プラストライプと、楽しい一日を過ごす事が出来た。走行距離約二〇〇Kだった。

十二月六日(火)

二本松スポーツ協会 元会長

三ツ箭協会長就任祝賀会

報告 編集部



18時48分、乾杯

十二月三日黒森山関連記事

鉄扇公園の名の由来、種橋鉄扇について



「鉄扇橋」という橋があり、二本松市塩沢の油井川に「鉄扇橋」という橋があり、ます。橋の袂に一基の石碑があります。正面・種橋鐵扇成興(これは人名、左側面の意訳「この橋の、永代修造料については上成田村榎戸耕地・宮前新田桑園から一斗三升二合年貢として、

他に一年一貫文を「自作作人」から取り、十年目毎に橋の木を掛け替えること、寶暦九年九月」。

十年目毎の「掛け替え」と費用について、石碑を建てそれを明記して置きました。年月を経ても消えぬよう文字も大きく、彫りも深くしてあります。そのおかげで明治維新まではこの橋はきちんと維持管理が行われたことでしょう。『二本松藩の「赤子生育法」、「養老法」、「窮民救済扶植法」等々の社会政策(福祉政策)の実行建議者として有名な(二本松寺院物語)です。鉄扇のお墓は根崎鳥谷の長泉寺にあります。お墓の文字も大きく彫りは深くなっています。



会長挨拶



□□□□スポーツ協会会長挨拶



花束贈呈 □□□さん



花束贈呈、□□さん

昨年四月に二本松市スポーツ協会の会長に就任された、当会の□□□元会長の就任祝が、十二月六日(火)、役員会に併せて実施された。本来なら、別に会場を設け、会員の皆さんにもご参

加頂いて盛大に開催すべき所だったが、昨今の新型コロナウイルス感染症対策として、小規模に実施した。因みに「二本松市体育協会(NITK)」の名称も「二本松市スポーツ協会(NSA)」となっている。

編集後記 四一〇号

◆皆さんは初日は拝めましたか。私は例年通り奥岳から拝もうとして出掛けましたが、岳温泉で吹雪に遭って断念、写真は無し。お城山からの木幡山初詣の本殿電飾の写真は撮れました。お正月、それほど寒くは無かったです。

◆今日は四日、つまり一日前に会報完成、明日は何にでも使える。

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。